

# 衆議院災害対策特別委員会ニュース

平成 20.9.11 第 169 回国会第 8 号（閉会中審査）

9月11日、第8回の委員会が開かれました。

## 1 委員長の辞任

- ・委員長の辞任を許可しました。  
辞任 委員長 鈴木恒夫君（自民）

## 2 平成 20 年 8 月末豪雨により亡くなられた方々に対し、黙禱をささげました。

## 3 派遣委員からの報告聴取

- ・7月28日からの大雨による被害状況等調査のため、兵庫県に派遣された委員を代表して、佐田委員長代理理事から報告を聴取しました。

## 4 災害対策に関する件（平成 20 年 8 月末豪雨による被害状況等）

- ・平成 20 年 8 月末豪雨による被害状況等について、林国務大臣（防災担当大臣）から説明を聴取しました。
- ・林国務大臣（防災担当大臣）、渡辺厚生労働副大臣、金子国土交通副大臣及び政府参考人に対し質疑を行いました。

（質疑者及び主な質疑内容）

### 杉浦正健君（自民）

平成 20 年 8 月末豪雨

- ・伊賀川とその支流、鹿乗川、広田川とその支流の改修計画とその実施状況の概略を説明してほしい。また、どれくらいの年月と費用を要するのか。
- ・愛知県営湛水防除事業岡崎鹿乗地区について、完成すれば今回程度の豪雨による浸水はほぼなくなるので、地元は期待している。平成 24 年度完成予定だが、予算を重点的に投入し、もっと早く完成させてほしい。
- ・国の責任で一刻も早く復旧に向けての努力をしてほしい。防災担当大臣の決意を伺いたい。

### 高木美智代君（公明）

雑司ヶ谷幹線再構築工事事故

- ・国土交通省は、この事故に関しどのような対応策を講じるのか。また、省内に設置した検討委員会で報告書を取りまとめ、地方自治体に周知させるとのことだが、地方自治体のどのような対応を想定しているのか。現場に周知徹底されるよう、フォローアップを大事にしてほしい。
- ・厚生労働省には、国土交通省と連携して、現場での労働者安全確保への取組をお願いしたい。厚生労働副大臣の決意を伺いたい。
- ・局地的集中豪雨発生メカニズムの研究を促進するとともに、局地的集中豪雨対策への取組を早急に進めてほしい。

### 古本伸一郎君（民主）

平成 20 年 8 月末豪雨

- ・河川のはん濫が起こるおそれがある場合に洪水予報が発令されるが、何を基に判断するのか。また、全国の河川のうち水位計が設置されている河川はどれくらいあるのか。水位計の設置を早急に進めてほしい。
- ・同報系市町村防災行政無線の整備されていない市町村が全国で 25% あることについて、どのように考えるか。また、早急な整備に向けての防災担当大臣の決意を伺いたい。

### 岡本充功君（民主）

- ・平成 20 年 8 月末豪雨で避難勧告が出された地域以外で家屋の浸水が多かった。避難勧告の在り方を見直すべきと考えるがどうか。
- ・事故米の転売問題について、広がりを早急に調査するとともに、農林水産省の検査体制を見直すべきである。

### 和田隆志君（民主）

平成 20 年 8 月末豪雨

- ・今後、局地的な豪雨に対して、より早く予報ができるような精度の高い分析能力を身に付けてほしい。
- ・ゼロメートル地帯において大規模開発をする場合、居住者の安全を確保するため、地盤の高上げ等の指導をすべ

きと考えるがどうか。

### **佐々木 憲 昭君（共産）**

平成 20 年 8 月末豪雨

- ・ 防災行政無線の整備について、財政措置を含め国が計画的に進めるよう防災担当大臣の決意を伺いたい。
- ・ 河川区域内の住家の移転に当たっては、住民の合意と納得を得て進めてほしい。

### **日 森 文 尋君（社民）**

- ・ 気象庁の歪計の半数近くが耐用年数を超過しているとの報道があるが、このままでは地震予知に対する国民の信頼性を損なうことになるのではないか。また、新型の歪計の切替えについてどのように考えているか。
- ・ 岩手・宮城内陸地震の復興に向けて被災自治体に対する財政支援をすべきではないか。